



コロナ禍での梅雨の季節となりました。思えば2年前の6月は、緊急事態宣言後、学校再開となったタイミングでした。あれから2年。新型コロナウイルス感染症との日々は続いています。5月には体育祭を終え、現在2・3年生は現場実習に取り組み、1年生は、「先輩たちが現場実習へ向かう校内を預かるんだ。」というそんな雰囲気にも包まれている校内です。湿度も上がる一方で、体が熱さに慣れていないこの時期。少しずつ体を気候に合わせていこう、進めながら元気にこの季節を乗り切っていきましょう。

マスクの着用について

コロナ禍のこれからの季節の「マスク」の着用については、横浜市からは、話をしない、距離を保つ等を前提に登下校時には、マスクを外すようにという通知がありました。本校では、これまでも、例えば体育、部活動等呼気が荒くなるような場面では、マスクを外して活動するよう指導をしてきました。熱中症のリスクが高まるこれからの季節は、更に注意が必要となります。本校では、現場実習へは一人で行く、登下校は全市からといった生徒のみなさんが、マスクをする、しないといったことを場面に応じて自分で判断できるようにすることを目指していきたいと思えます。そのためには、自分の体調をしっかり自分で把握することはもちろん、社会のマナーやルールについても把握していることが必要です。最近では、熱中症のリスクが高まる体育等の活動では、マスクをする必要はないといった報道もあります。自分の体調をしっかり自分で把握して社会の動向にも注意して、自分でどうするのか、自分で考え決めて行動できるよう取り組んでいましょう。



6月の朝会から

6月1日は、本校の開校記念日です。本校は昭和56年4月1日に横浜市立高等養護学校として開校しました。開校当時は、全国で8番目、関東1都6県の中では、初の高等部単独の高等養護でした。その前身は、現在空き地となっているお隣にできた横浜市立日野養護学校です。

日野養護学校は、昭和46年に小学部、中学部のみで開校しました。まだ高等部は、ありません。それから5年後、昭和51年に横浜市立養護学校としては初めての高等部が、日野養護学校に設置されました。入学してきたのは、根岸職業実習センターで、中学校卒業後、訓練生として学習していた20名が2年生に編入し、1年生には中学校特殊学級(現在は個別支援学級)と日野養護中学部卒業生、合わせて30名でした。その時に完成した校舎が今も皆さんが学んでいるA棟です。

その後、市内の入学希望者が増加し、平成16年には二つ橋に高等養護学校二つ橋分教室が開設され、平成19年、正式に二つ橋高等特別支援学校として開校しました。この平成19年に学校に関する法律改正があり、現在の横浜市立日野中央高等特別支援学校に学校名が変わりました。これまでに2,210名の卒業生が巣立っていきました。

生徒の皆さん、その学校の本当の歴史を作っていくのは、先生ではありません。君たち在校生であり、今この瞬間も社会で活躍している多くの卒業生が、その学校の歴史を作っていくのです。君たち一人ひとりの活躍が、新たな日野中央の歴史を作っていきます。どのような1ページをそこに積み重ねていくかは、正に生徒の皆さん次第なのです。日野中央のこれまでの歴史を振り返るとともに、より素晴らしい日野中央を作ってくれることを、皆さんに期待します。

